

# HAND IN HAND

はんど いん はんど

子どもについて感じたこと、書きおくらせてください

☑ みなさま、お元気ですか。若葉がめにしむ候となり、なんとなく気分がうきうきしてきます。といふのもあいかげらす"アレルギー"鼻炎がひどくて、先夜など息がつかず死ぬんじゃないか、誰かに電話しようかなとずぶん心細くなりました。これほど丈夫だったので、熱や汗がひどいとそれだけで頼りなくなるのです。なにかない限りです。でも、ようやく「主婦症候群」も発売されましたし（文化出版局¥950）、「子どもが書いた離婚の本」の審判読も終わったので、半ばぶりに少し休みたいと思っています。日曜もない毎日でしたから。

☑ さて、こうして「子どもが書いた離婚の本」を読みますと、私たちおとなの目で子どもをはかっていることを再認識しました。子どもといっても冷静でしっかりした目で親の離婚をわらえていいます。アメリカと日本との国情の違い、法律の違いはあれ、子どもが親の離婚で悩むことも、親に望むことも、それには違いなどないようです。ただ、アメリカでは親は離婚しても、親子の縁は切れていず、別れた親ともたいてい会っていることなど、子どもには子どもの権利がしっかりと確保されているようです。

☑ 日本ではどうなのか、と考える時、とにかく情報の少ないのが致命的です。子どもたちがのびのび生きていくためにも、離婚した家庭の子に対する世間の偏見をとりぬくためにも、そして離婚家庭への福祉を充実させるためにも、私たち Hand in Hand の会員が協力して多くの情報を集めていけたらと思います。

離婚の際、またその後のこと、なんでもいいです。子どもに聞いたり感じたこと、感じたことをぜひお手紙でお寄せください。書くのが苦手の人はご一報ください。お話をうかがいいたします。

ご協力おねがいします。 1982. 4. 30. 円お子

逐次刊行物

13.2.14

15

# 破綻

## — 子供の立場から —

★親が長い間けんかばかりしてくらし  
てきて、近々離婚をするという時の  
子供の側の思いを聞いてみました。

A子さんは、25才の公務員。妹は23才  
のOL。父親は56才、母親は54才です。

「父は、お酒を飲まないではいられな  
い人なんです。暴力は、ふるいません。

でも、お酒を飲む為にお金を借りて  
します。サウ金・親類・会社からも借  
りてします。生活は苦しくなるし、借

金の返済もあって、母は、私が小さい  
ころから外で働くようになりました。

小さいころから、親のけんかを見て育  
ったので、子供ながら、けんかの最中

に、「離婚」とか「別れる」ということばが  
耳に入ってくることもある。そんな時、

すごく悲しくて、わわわ泣きながら  
家をとび出したこともあった。友達

の両親がふつうにくらしていることも、す  
ごく仲がいいように見えて、とてもうら

やましかった。だから、いくらけんかば  
かりしている両親でも、たまに私に、

やさしくしてくれと、うれしくて友  
達にすごく得意気に話したことも

あった。でも、だんだん大きくなつていくに

つれて、父の良い所も悪い所も、母の良い  
所も悪い所もよくわかってくる。そうす  
ると、やはり母の方がいい。しょうけんめい  
にやっているようにみえ、別れた方がいいのに  
と思うようになった。

中学生のころは、自分を悲劇の主人公み  
たに思ったこともあるけれど、いろいろな  
本を読んだり、人と出逢ったりしている内  
に、自分の生活を楽しくすることを覚え、  
悲劇のヒロイン気取りがばかしくなつて、  
忘れちゃったみたい。

父と母は、別居して四年になる。私は当  
時地方の大学に通っていて、たまたまその  
土地にある会社に、父が東京の会社をやめ  
て移るようになった。そこで、「じゃあ私、お父  
さんと住むから、お母さん別れた方がいいよ。」  
ということになった。父と私といっしょなら、別  
居してさもないと言ったので、母と妹は東京の  
家、私は通学をやめて父と地方でアパート  
暮らしをすることになったわけ。

私は、ずっと同じ気持ちで父とくらして  
けると思っていたのに、いっしょにくらして  
みると、父の悪い所が目につく。

あ、お母さん、こんな所までがまんしていたの  
が、と気付いた。それでも、父の為、父の為  
とがまんするけれど、私にさやりたいことが  
ある。このままだと、自分の人生がなくなつて  
しまうので、就職を機に、母の家に  
戻りました。父はその後、そのまま、ひ  
たりでくらしている。会社を、今では、や

めてしまっている。

父とくらしてはじめてのころは、夫婦とい  
うのは、もともと他人だけれど、親子  
は、血がつながっているのだからという考え  
でがんばるつもりだった。くらしてみると、  
父に非があること、母がどんなにがんばってき  
たかがわかったけれど、やはり夫婦のこと  
は、子供にはわからないことが、たくさんある  
と思う。

母は、近く離婚することを考えている。  
それが、私や妹の結婚の時、影響するの  
かと少し悩んだこともあったけれど、妹と私  
も就職して社会に出る様になって、別にど  
うでもいいと、気にならなくなりました。  
母は、経済的に自立できるまで待ったわけ  
だけれど、もし子供の為なら、別れられなかつた  
ようなことはかり言われてきたら、「じゃ、私  
なんかない方がいい。」みたいな、極端な考  
えを、子供としては、持てしまったのでは  
ないかと思う。親が必死に自分自身を生  
きようと、がんばっている姿は、子供心に  
すごく感じると思うから、もし小さいころに  
母が別れたのであれば、私は、納得でき  
ると思う。

今は、会うたびにふけていく父を見るの  
が少しつらい気もするけれど、小さい時、  
私にこんなことをしてくれたという父の思  
い出が、ポツン、ポツンと残っていて、父は  
父なりに私への愛情表現をしってくれた  
んだなと思う。

母は、年々強くなるし、若くなつていくように見える。昔は、それほどでなくなつたけれど、今の母を私は、自慢できる。長く勤めた造園関係の仕事が楽しいと言つし、この間は、ひとりで外国旅行をしてきた。そんな母も、前は、からだが弱くて困つていたのに、今はよく食べるし、よく寝るし、すく健康。母親がしっかりしていれば、どんな結果になつても、子供は納得するんじゃないかかしら。お父さんと、なんとかひとりで生活してつてほしいな、と思う。

♡『母と子の離婚の本』を作りたい、といふような方からお話をうかがつていますが、体験から出たままの声には、心動かされるものがあります。毎日、い人に出会え、いい話を聞けるしあわせです。感じます。(まどがよりこ)

## 再婚のこと

☆厚生省の人口動態調査(昭和53年度)を見ると、圧倒的に「再婚したい」といふのは男性に多いことがわかる。まず、離婚した時点で、すでに再婚の決まつてゐる人が、夫は、2.5%もいる。(妻は、5.5%)「将来再婚したい」と考えてゐるのは、夫52.3%に対して、妻28.6%。離婚して未成年の子供と

同居してゐる場合は、「将来再婚したい」夫は、63.7%(育児と家事のできる人がほしい)で、しょうゆ、妻は、29.9%、「再婚したくない」妻は、62%と多いが、夫の方は、たったの20.5%。☆私たちが、ほとんどいほとんど、の仲間にも数は少ないが、男性がいる。その中で手紙をくれた5、6名の人は、皆、再婚の意志があり、伴侶をこの会で探したいと言つてゐる。それに比べると、女性の方は、「どういいわ」といふ人、「うーん」と考えて答えない方が多く、積極的に「再婚したい」といふ人は、少ない。

☆先日、こんな人がオースを訪ねてきた。お見合のいような形で、男性を紹介されたという。年令は、40才の会社経営者。離婚した妻が、子供二人をひきとつてゐるが、養育費はきちんと払つてゐるし、子供と会つてゐるらしい。その子供達は、中学生と高校生。「難しい年頃だから、結婚よりは同棲がいい。但し、コンコンとだよ。結婚するにしても、結婚式は挙げない。こう言われて、35才の彼女は考えた。自分の子供と、中学生。やっぱり華々しく、式を挙げ、この結婚は、考え直さしよう。だから彼の考えもわからなないではない。彼は、やっぱり人だし、好ましい。どうしようかしらと考へて、交際する内、ある日、「泊ま、こけよ」と言われた。びっくりするやら、悲しいやら、あわてて、とんで帰つてきてしまった。彼女の、時間をかけて、人となりを知つてから、という考へに対して、彼は、子供じやないんだから、欲望を

持て何が悪い、また、会おう、と言つてきた。あんたことになるなり、とつ、いやです。でもこの先私の前にああいふ男性は、現れないかと思へない。そう考へると、ムゲにと断われないし、どうしていいかわからない。精神的にも経済的にも頼れる人のような気がするし、そういう人がいると本当に乗だと思ふし、でもすぐSexというのは、どうしていいや。いたい、いつの時どうすればいいのかわ……彼女は心のうちを打ちあけたのだ。何かと思つと、こんな人もいる。「なんで再婚しないの?」と、たいてい「い」といわれる。でも私は、25年の結婚生活で、人の何倍のことまでやつてきたでしょ。とうすべて相手の為にしつゝした。て感じ。だからとて、次の結婚のことなんか考へるわけがないわ。娘と二人だけの今の生活は最高ですもの。相手がどういふ人であれ、とつ、け。こうして感じ。あしたから食べられなくともいい。自分の気持ちに忠実にいられることが、こんなにすばらしいものかと、満喫していただきますもの。」と、言つて明るく笑つてゐる。

☆ある男性は、離婚すると、社宅から出なくともならない。すでに別居して一年、今、月、すべこの話し合ひもつて、今は、印を、おせば、良いだりなの、に、社宅から出なくともならないのが困るから、「離婚前に是非、再婚相手をみつけない」といふ。☆男性にとつて今の結婚制度は、やはり、ずい分と、便利なものだといふことなのだろう。再婚を考へるなり、そのあたりを自分の中で整理しては。

# 第34回 ニコニコ離婚講座のお知らせ

〔期 日〕 5月31日(月) 午後1時半～4時

〔会 場〕 青山ラ・ミアビル5階(地下鉄銀座線表参道駅下車、A5出口前)

〔受講料〕 500円

〔定員〕 100名

〔講座内容〕 1部「児童心理学者による離婚と子供の話」

立教大学助教授 佐藤悦子

2部「離婚に必要な法律と手続き、質疑応答」

金住典子弁護士

## “HAND IN HANDの会”へのおさそい

★ 第12回 ほんどいんほんどの会

〔日時〕 5月20日(木) 午後6時半～8時

〔場所〕 新大塚町ビル1階

『サンパティック・サロン』

〔会費〕 1000円 (定員) 15名

〔テーマ〕 『父親とは？』

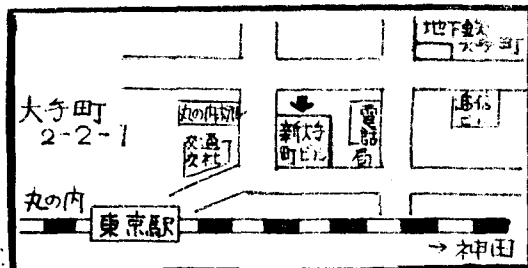
その他、話したいテーマありませんか。

前回、雨の為、参加が少なかつたので、同じテーマです。

〔申し込み方法〕 TEL. 402-7354 AM11:00～PM5:00まで受け付け。

予約の都合上、できれば、2日前までに、お知らせ下さい。

★ 離婚前の方…… 講座の日、講演のあと、コーヒーを飲んで、お話をする時間があ  
ります。時間は、4時半から6時。会費500円。



### 購読料についてのお断わり

円より子主宰の「ニコニコ離婚講座」と満ち足りた。受講者の中にも離婚した人がふえてきました。とうとうまた、悩みも出てくるし、さまざまな情報もほしい。また、地方に住んでいて、講座にも出られないが、仲間がほしいという声も多く、この二つの目的のために、Hand in Handは、スタートしました。当初は断りなく、講座の名簿から、既に別居している人にも送っていたので、こうして、購読料をとるようになると、「勝手に送ってきたのだから、払いたくない」と怒って手紙を下さる方が、ほんの少しですが、ありました。購読料は、カンパと考えると下さればよく、



▼ Hand in Hand を続けるには、みなさんのご協力が必要ですが、決して強制では、ありません。心優しい方で、他にも気にしていらっしゃる方がいるといけないと思い、お断わりを書くことにしました。購読料よりも、とにかく楽しみに待ってよんでいただけなら、それでいいのです。

### 購読方法 ※ その他

● 定期購読は、半年分4円、一年分24円 毎日10日前後におともに届きます。

● 「宛所に居住者ありません」と印がおさ  
れて、毎月、何通も戻ってきます。逆に「届きました」という申し出も受ける。事務処理の都合上、住居移転や姓の変更、氏時、又、届かなかった時は、ハガキで、オスス・ヨリックまで、お知らせ下さい。

▼ 1982年5月1日  
ニコニコ離婚講座発行

▼ 発行人・円より子 ▼ 編集人 平澤ミド

〒150

東京都渋谷区神宮前3-33-2  
原宿ハイル202 オスス・ヨリック